

《就労のダメージ》

震災は仕事に就くことにも大きな影響があります。

東日本大震災で特に被害の大きかった三県(岩手、宮城、福島)の昨年11月の失業手当受給者のうち、女性(37601人)は男性(26631人)の約1.4倍になることが厚生労働省の調査でわかりました。ちなみに震災前はほぼ同数でした。

また、仕事を探している有効求職者数も男性(約62500人)に対して女性(約74000人)が大きく上回っています。

これは、震災により保育園や介護施設が閉鎖されて利用できない、家族の世話をする必要から勤務地や勤務時間に制約を受けるなどの理由から、被災地の女性が特に仕事を得にくい状況になっているようです。

普段から男女の固定的性別役割分担意識・雇用の格差などがある大きな社会ほど、災害時にいろいろな場面で、女性が被るダメージが大きいのではないのでしょうか。(木下)



《女性に対する暴力》

災害時は、暴力が平常時に比べて増加するといわれています。暴力などの報告はあまり公にはされませんが、震災後にDV相談や性被害の相談が増加したという報告があります。

・夫・恋人からの暴力(DV)被害

東日本大震災後、宮城県警によると、2011年1月から9月までのDV被害相談は1048件で、前年同期より50件増えました。その中には、震災で職を失った夫が暴力を振るうようになったり、DVが原因で離婚や緊急避難的な別居を考えていた女性が、震災によって踏み切れない状況に追い込まれ、今も暴力を振るわれ続けているというケースも少なくはないそうです。

・増える性被害

「震災後は街がどこも暗くて会社や学校からの帰宅途中がとて怖かった」という女性は多かったようです。阪神・淡路大震災では、リュックサックをつかまれ、半壊の建物の中に、引きずり込まれる、お風呂に入りたい女子学生がワゴン車で誘われ、解体現場に連れ込まれて複数でレイプされるなどの事件も報告されています。

《避難所生活では》

阪神・淡路大震災で実際に起こったことを紹介します。

- ・授乳室がなかった、ミルクがたりない、離乳食が不足した。
- ・子どもがいると周囲に気を使う。避難所ではとても疲れた。
- ・子どもが遊べる部屋が欲しかった。子どもが周囲に迷惑をかけることを気遣って避難所を利用しない母親も多かった。
- ・プライバシーが守られなかった。長期にわたるプライバシーのない生活は人権侵害である。特に思春期の女性たちにはトラウマになった人も少なくない。
- ・風呂にのぞき穴がたくさんあった。
- ・子どもたちが避難所や仮設住宅でさまざまな性的な被害を受けた。避難所の校庭の隅で遊ぶ幼児への性的虐待があった。

- ・避難所では障がいを持った人や障がい児を持つ家族はいることができなかった。
- ・長引く避難所生活で特に女性に精神的、身体的影響が大きく、健康が悪化した。

(災害と女性ネットワーク・兵庫県被災者連絡会 95年10月調査)

阪神・淡路大震災の経験を活かし、東日本大震災では、女性団体や内閣府男女共同参画局などが、災害時の女性に対する配慮を何度も被災地の自治体に要望を出していました。しかし一部の現場でしか実施されず、女性の視点や意見を取り入れる体制にはなりにくかったのが現実でした。(平川)

男女共同参画の視点を踏まえた東日本大震災への対応について

<http://www.gender.go.jp/saigai.html>

内閣府男女共同参画局が災害時に役立つ情報を紹介しているホームページです。

「YOKOHAMAわたしの防災力ノート」(男女共同参画センター横浜南)

「女性の視点からの防災対策のススメ」(大分県生活環境部県民生活・男女共同参画課)

なかでも、上の2つのホームページからは、日ごろから心がけておきたい貴重な情報を得ることができます。(木下)

災害の実態がよくわかる本の紹介

『女たちが語る 阪神・淡路大震災』

ウイメンズネット・こうべ編



阪神・淡路大震災で被災した女性たちが実際に経験したことを記録しておきたいという思いから、彼女たちの声をまとめた本です。どれほど女性たちの心と体に負担がかかったかがわかります。

『地震は貧困に襲いかかる』

阪神・淡路大震災 死者6437人の叫び いのうえ せつこ著/共栄書房



阪神・淡路大震災でなぜ高齢者・障がい者・外国人が多く犠牲になったのか。生死を分けたのは、住環境・人間関係などには原因があるとしています。今後、安心して生活できる「住」や「社会のあり方」について提言をしている本です。(木下)